



あいづばんげ

議会だより



「牛沢甚句保存会」の紹介

牛沢甚句 町指定重要無形民俗文化財（昭和55年10月23日指定）

牛沢甚句は、嘉永2年に大徳寺が再建される際に、建築にあたった大工連の故郷（越後国・間瀬村）を思う哀愁の気持ちを慰めるために、村人たちが踊りで座興を盛上げたのが始まりとされ、旧暦7月16日に大徳寺境内で仏の供養として唄い踊られてきた。これが現在に至るまで受け継がれており、町内を代表する伝統文化である。

昭和55年には町の重要無形民俗文化財の指定を受けており、大工の仕事姿を追想し、工夫を加え郷土色豊かで、独特の右回りの踊りで、9月9日の若宮八幡神社祭礼で繰り広げられ、七・七・七・五の甚句調で作られる歌詞が特徴となっている。

活動内容 永年、牛沢区で継承されてきた「牛沢甚句」を後世に途絶えることなく伝承していくことを目的に、村内各団体が連携・協力し、保存継承活動に取り組んでいる。

問合せ先 代表 新井田健一（Tel 0242-83-0812）

ばんげの宝【牛沢甚句保存会】

第3回定例会(9月議会)目次

注目!

「財政アクションプラン
（議会全員協議会）（2・3P）」

「決算特別委員会（4・5P）」

- ◆ 第3回定例会の主な審議案件 …………… 6P
- ◆ 請願の審査・賛否の公表・決算審査 …… 7P
- ◆ 一般質問 …………… 8～13P
- ◆ 行政調査の報告 …………… 14・15P
- ◆ 皆さんの声・編集後記 …………… 16P

具体的に細部まで検証!!

<これまでの経過>

議会では、今後の財政状況を把握するため、町に財政シミュレーションの揭示を求めてきました。

6月14日に、今後10年間の財政シミュレーションが示され、対策を取らない場合、令和4年度から7年度の4年間総額で約3億7200万円収支が赤字となる見通しとなりました。

その赤字解消に向けて、歳入の確保と歳出の抑制を進める、今後の具体的な取り組みを明記した「財政健全化アクションプラン」が示されました。

9/18

議会全員
協議会

長期的な町財政の「立て直し」と「展望」 10年間の財政見直し

①単年度収支の黒字化を図る

令和2年から令和6年度まで、財政健全化策に取り組むことにより効果額が歳入で4750万円の増、歳出で2億4722万1千円、合計で2億9472万1千円と試算しました。(次頁参照)

②財政調整基金を確保する

平成30年度9550万円から財政調整基金の適正額と言われる財政標準規模の10%(4億5000万)を目指します。

③実質公債費比率を改善する

平成21年度18.7%から平成30年度13.7%と着実に比率が減少しておりますが、目標として、10%以下を目指します。

③ 実質公債費比率の改善
② 財政調整基金の確保
① 単年度収支の黒字化

具体的な改善策

<歳入>

- ①町税等の確保
- ②受益者負担の見直し
- ③町有財産の有効活用
- ④ふるさと納税の推進

<歳出>

- ①大型公共事業の見直し
- ②起債の抑制
- ③委託料の適正化
- ④補助金及び負担金の適正化
- ⑤公共施設運営等の見直し
- ⑥繰り上げ償還の実施
- ⑦人件費の抑制・削減
- ⑧事務事業の見直し

用語説明

- ①実質公債費比率とは、自治体の収入に対する負債(公債費)返済の割合を示す。通常、3年間の平均値を使用。実質公債費比率が25%を超えると財政健全化団体となります。
- ②財政調整基金とは、自治体が財源に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで、財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金。

議会の見解

財政状況を注視

プラン実施の効果は約2億9472万円と試算

歳入

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
受益者負担の見直し	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	7,500
町有財産の活用	6,500	6,500	6,500	6,500	6,500	32,500
ふるさと納税の推進	1,100	1,100	1,100	2,100	2,100	7,500
合計	9,100	9,100	9,100	10,100	10,100	47,500

歳出

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合計
補助金・負担金の適正化	0	2,000	2,000	2,000	3,000	9,000
委託料の適正化	2,770	3,718	270	370	1,270	8,398
公共施設運営の見直し	0	4,662	7,147	7,120	6,007	24,936
その他事業の見直し	31,797	46,486	47,414	49,657	29,533	204,887
合計	34,567	56,866	56,831	59,147	39,810	247,221

単位は
千円

議会の
要求

町民の意向を施策に反映できるように、執行部側と議会側のすり合わせを常任委員会で行い、削減する根拠を議会に対して説明する機会を随時求める。

主な質疑

Q…系桜里の湯の指定管理料（約5000万）は、どうなるか。

A…指定管理が終了する令和3年4月からは、町からの支出はなくなる。町民の福利厚生施設として、民間活力による施設の存続ができるように売却も含め現在検討している。

Q…坂下東第一土地区画整理事業の見直しを行うのか。

A…現在の坂下東第一土地区画整理事業は、令和3年3月が終了年度となっており、国に対して事業変更の手続きをする必要がある。令和2年度中に、事業の見直しを行う。

Q…坂下厚生病院建設に対する補助金は。

A…新築移転補助金と解体補助金があり、解体補助金は、国・県・町の補助率に基づいて支出する。新築移転補助金は、事業費約100億円の1割（10億円上限）を厚生病院運営協議会に加入している市町村で負担するよう協議を進めている。

Q…新庁舎建設の考えは

A…耐震性から建て替えの必要性は変わらない。令和10年から基金積立を再開する計画であるため、5年後の後期基本計画で建設時期等を示していきたい。

昨年から引き続き

議会が

追跡

平成30年度水道事業会計
決算認定について

昨年の9月議会において不認定となり、その後、11月臨時会で、認定された水道事業会計に注目した。

平成29年度の決算書にて、指摘されたミスや議会から改善要望された事務処理状況が平成30年度にどのように反映されたかを慎重に審議した結果、水道事業会計決算について賛成全員で認定した。

賛成

佐藤宗太議員

平成30年度決算には、平成29年度水道事業会計決算の不適切な会計による過去から累積していた修正すべき箇所が含まれております。過去をさかのぼり台帳などを含め精査することは大変な業務作業だったのではないかと推測されます。「業務チェック体制の強化」という課題は残るものの、一定の評価をする。

6000万円)の使い道を徹底追及



主な質疑



<p>Q1：歳入歳出全般について 繰越金3億2734万円であり、全体的に執行率が悪い。どうしてなのか。</p>	<p>A：繰越額が多い要因は、歳入では町民税が増収、歳出では暖冬による除雪経費、人件費、国保・介護・下水への繰出金、施設型給付費などにおいて予定よりも執行残があったためである。</p>
<p>Q2：予備費について 例年よりも多い予備費が不要額となっており、地区からの要望で道路が傷んでいる箇所や修繕などの事業費に回せなかったか。</p>	<p>A：予備費は、いざという時のための財源であるため、多く持つ必要はないが、ある程度の予備費は必要である。今回は、想定した支出が少なかったため、予備費が増額となった。</p>
<p>Q3：斎苑管理運営費について 会津西部斎苑の火葬炉等修繕工事費（1087万円）は毎年、必要なのか。今後の見通しは。</p>	<p>A：火葬炉が3つあり、耐用年数は3年とされており、毎年1か所ずつ修繕工事している。施設自体は30年程度経過しており、今すぐではないが、近い将来、建替えが必要となるかもしれない。</p>
<p>Q4：補助金について 老人クラブへの補助金（80万円）は何団体で、何名が加入しているか。</p>	<p>A：老人クラブ数は28団体であり、老人クラブ加入者は1256名である。</p>
<p>Q5：負担金について 市町村生活バス路線運行負担金（4237万円）が前年より384万円増えた理由は。</p>	<p>A：この負担金は町内6路線と町外とを結ぶ基幹路線の赤字補てん分であり、昨年より増えた要因は、利用者数の減、燃料費の高騰、運行経費の増によるものです。</p>

決算特別委員会の審議

委員長に山口享議員、副委員長に赤城大地議員を互選し、町長提出の8会計を、慎重に審議した結果、すべての会計の決算を認定しました。

平成30年度一般会計決算認定について

私はこう考える



討論

反対

横山智代議員

反対

五十嵐一夫議員

反対

渡部正司議員

反対

小畑博司議員

執行率が低く不用額が多い。住民サービスの低下を招いている。町民の町行政への不満・不安を与えることになる。町は何を重点とし町政運営をしているのか。

繰越金と予備費の増加は、予算執行が適正になされたとは言いがたい。議会として、このまま承認していいものか、町民から議会の権威と資質が問われます。

予算に行政センター建設基金8千万円、新庁舎建設費も計上しつつ、財政危機を理由に、庁舎建設延期とした。財政状況を知りながら、提案・承認された事を執行できないのは、町民への大きな背信です。

本決算は、執行率が93%と低く、大きな不用額をもたらした。予算編成の精度が問われる。必要ものを縮こませた執行縮減は、極めて内向きで健全とは言いがたい。特に、地域づくりや教育関連の縮減は、繋がりや大きな夢を育む芽を摘んでしまった。歪んだ財政健全化であってはならない。

昨年9月の新庁舎建設延期表明以来の行政運営は、町民にとってまことに不透明と言わざるを得ない。すべての施策での縮減と、町民サービスの低下でしかない。希望の見えない行政執行から、しっかりと説明責任を果たし、元気の出る運営へと舵を切れ。

平成30年度8会計（総額125億

評価できる事業

①徴収率向上（現年度課税の徴収率99%達成）※県表彰2年連続受賞

②町民体育館解体事業
（4846万円）

老朽化に伴う建物外壁の落下等の危険性を考慮し、子ども達の安全を最優先に実施



③幼稚園児送迎バス乗降所整備事業
（総事業費2548万の内、
平成30年分事業費969万円）
町民体育館跡地の有効活用を図り、
児童の安全対策を実施



課題

- ①委託料の在り方（地域づくり、NPO、指定管理等）
- ②負担金の在り方（市町村生活バス路線運行等）
- ③繰出金の対応（各種特別会計）
- ④予備費の対応
- ⑤滞納と不能欠損の対応

賛成

五十嵐正康議員

営を要望し賛成とする。

平成30年度は我が町の財政再建へ向けた大きな転換の年度であったと評価する。歳出を節約することとで起債を大幅に縮減できたといえる。ただ次年度については、町当局に町民のメンタル面でマイナ

賛成

青木美貴子議員

本定例会でも財政の健全化を目指すとの答弁がありました。町が力を入れて取り組んでいる事業「財政健全化の具体的な取り組み」などについても町民に分かりやすく伝える工夫をして頂きたいと思えます。実質収支として3億2734万1千円の大幅な赤字となりました。自主財源の確保に努められたことを評価するものです。



賛成

渡部順子議員

財政の健全化を課題とする中、実質収支額が例年よりも大幅に大きい3億2734万1千円となり、予算編成が厳しい中で必要な事業を執行された結果であると考えます。今後も住民福祉と安全安心な生活の確保と財政健全化を進めて頂き、今後も国県の補助事業に関しても、率先的に取り組むことを要望します。

賛成

三橋薫議員

なお、決算内容と監査委員の審査意見書を熟読・理解し次年度以降の予算編成や執行に生かし、今後も住民の生活向上と福祉の充実に努め、財政健全化に向け最善の努力を重ねる事を期待します。

賛成

猪俣恒雄議員

町民税や固定資産税の現年度分取納率や、滞納繰越分の徴収率の大幅なアップ等は、税の負担公平性の観点からも、大いに評価されるものである。
例年であれば約1億から2億の間であった繰り越しが3億2千万強の数字になったのは、基金造成要素であり、この決算評価の大きなポイントであると考えます。